

写真番号	タイトル	画像	説明文
AR01	ブエノスアイレス市		アルゼンチンの首都ブエノスアイレスは人口約360万の美しい落ち着いた街である。街の中心を貫く5月大通のつきあたりに国会議事堂があり、その前の広場には鳩が群遊し、いかにものどかな南米第2の都である。
AR02	サン・マルチン		サン・マルチン将軍はアルゼンチン独立の英雄であり、アルゼンチンだけでなく南米のほかの国々でもサン・マルチンの名を冠した通りや広場が多い、ブエノスアイレス市で有名な商店街サンタ・フェ通の入口にあるサン・マルチン広場には立派な銅像がある。
AR03	国立劇場コロソ		コロソ劇場は世界的に有名でヨーロッパのシーズンオフには一流のオペラやバレエ団がやってくる。「世界で一番広い」とポルターニョ(ブエノスアイレスっ子)が自慢する7月9日通にどっしりとかまえている。
AR04	街頭		ブエノス・アイレス市は近郊を含め人口600万と云われるが、まだまだのんびりしている。街頭には写真のように屋台の本売りが日なたポッコをしながら店を広げている姿やコーヒー店で歩道に出したテーブルからボンヤリと通る人を眺めている姿が見うけられる。
AR05	花市場		ポルターニョは花が好きである。したがって花の消費量も莫大、約800戸の日本人が花を栽培し、ブエノスアイレス市消費の半分を生産している。だからアルゼンチン人の中には日本人は花作りか、洗たく屋が特技だと思っている人もある。
AR06	花売り		このような花売りの姿も街のあちこちで見うけられる。花好きなポルターニョが相手だけに結構繁昌している。

写真番号

タイトル

画像

説明文

AR07	金魚		<p>日本人の中には郊外で金魚を飼っている人もいる。この人の場合は植木の小売をかね月々200ドル(約7万2千円)に収入があり、老人の隠居仕事としては割のよい仕事である。</p>
AR08	ジレーラ・アルゼンチナ(株)		<p>アルゼンチンきってのオートバイ・メーカーでイタリア系資本のジレーラ社には日本から技術移住者の山腰さんが働いている。アルゼンチンの技術移住は同国の経済事情から一時中止されていたが、最近同社、この他の会社から技術者の求人が増えつつある。</p>
AR09	技術移住者		<p>ジレーラ社の社宅と山腰さんの家族、山腰さんはジェット機で移住し、立派な社宅が与えられ、満足して働いている。同社の受入体制は万全で非常に好意的である。</p>
AR10	漁業		<p>日本からの漁業会社も進出し、ブエノスアイレスの魚港には太洋漁業や日魯漁業の船が見うけられる。</p>
AR11	魚類		<p>エビも立派なものがとれるし、マグロ、カレイ、サバ等も市場へ出まわる。おもしろいことにブエノス・アイレスの魚の番付ではタコ、イカ類が横綱格で、タイ等はスケソウダラと並んで十両格である。</p>
AR12	住宅		<p>ブエノスアイレスの郊外には日本人の花の栽培者が多い、エスコバル、フロレンシア、バレーラ等には特にまとまっている。在ア20~30年の先輩達は立派な住宅をもち、落ち着いた生活を送っている。</p>

写真番号

タイトル

画像

説明文

写真番号	タイトル	画像	説明文
AR13	温室		温室は日本の概念からするときわめて簡単な温室である。日本人のつくっている主なものはカーネーション、菊、バラなどが多いが人によって鉢物もやっている。10棟の温室を持てるようになれば一応一人前の花栽培者といえる。
AR14	シクラメン		花栽培は大体専門化していて、カーネーションをつくる人、菊専門の人と云うように人によってそれぞれ専門化している。一番多いのはカーネーションであるが、中には鉢物だけで今日を築いた人もいる。
AR15	菊		菊は日系人が主として栽培し、日本で行なわれるような菊人形展や菊のみの展示会はないが、毎年行なわれる花の展覧会では菊部門の入賞者は全部日系人であることも珍しくない。
AR16	花卉そ菜栽培と独身青年		先輩は花卉栽培青年を呼寄せせる。青年はパトロンの家で働きながら花やそ菜の栽培技術をおぼえて行く。4~5年して一人前になると数棟の温室を入手し、パトロンの援助をうけながら独立して行く。
AR17	パトロンと青年達		パトロンのもとで技術をおぼえ、独立した青年達はときどきパトロン宅を訪問し、市場のこと、今後の栽培品種の将来性について意見を聞く。またパトロンもこのように熱心な青年達を子供のようにおもい、自慢している。
AR18	ウルキッサ移住地		ブエノスアイレスから50kmのところ、ブエノスアイレス州の州都で、人口100万のラプラタ市がある。そこから車で15分で亜国営のウルキッサ移住地に着く。ここには20戸の日本人が入植しているが、その半数は派米青年達で、アメリカでの体験を生かして営農を行なっている。

写真番号



タイトル

画像

説明文

AR19	家庭		<p>ウルキッサ移住地には煉瓦造りの立派な住宅が建っている。すぐ近くにメルチヨル・ロメロの町があり、鉄道の駅もあるので開拓地と云う感じはない。これは派米青年若夫婦入植者の家庭である。</p>
AR20	農場		<p>ウルキッサ移住地の主なる作物はそ菜である。日本人のなかには温室をもって花をつくっている人もある。出荷は主としてブエノスアイレス、ラプラタ市へ向けられている。灌水は井戸を掘りポンプで水をあげている。</p>
AR21	養鶏		<p>養鶏は近年盛んになってきたが、ブラジルに比較すれば遅れている。それでもロック・フェラー系のアルボル・エーカー社が養鶏場を設置したので次第に組織化されブロイラーも行なわれるようになった。</p>
AR22	あひる		<p>この国では、あひる、鶯鳥等もよく食用に供され、羽毛はフン等に活用される。</p>
AR23	牛		<p>アルゼンチンで飼育されている牛の数は約5,000万頭で一人当2.5頭の割である。ブエノスアイレスの近くにある牧場は主として乳牛オランダ種が多く飼われているが、ブエノスアイレスを中心として南部はショート・ホーン、マンガース等の肉用種、北部にはセブ種が多く飼育され、世界有数の農牧国である。</p>
AR24	ヘネラルアルベアル駅		<p>アンデス移住地はブエノスアイレスの西方約1,000Kmにあり、汽車でブエノスを午後3時に出発すると翌朝の10時にはヘネラルアルベアルに着く。駅にはすでに先輩の入植者たちが待ちうけていて何かと世話をしてくれる。</p>

写真番号	タイトル	画像	説明文
AR25	アンデス移住地センター		ヘネラルアルベアル駅から約14Kmでアンデス移住地に着く。移住地の中央には煉瓦造りの収容所があり、また事業団の事務所がある。入植者は一応この収容所に到着し、営農の準備にとりかかる。
AR26	住宅		ロッテが決定すると農作物の植付が行なわれる。これと併行して家屋の建設を行なう。ここでは材木は非常に高価なので煉瓦造りの住宅が建設される。
AR27	ブドウとトマト		メンドサ州の永年作物の中心はブドウ、桃、スモモ等の果樹類である。永年作物が大きくなるまでの間、トマト、ピーマン、玉ねぎを間作し収入を計る。
AR28	出荷		収穫されたトマトはヘネラル・アルベアルにある缶詰工場に販売される。この移住地の近くには加工工場が多数あり、販路に不安はない。その意味では恵まれた移住地である。
AR29	アルファルファ		この移住地の土壌は概して植壤土を含む砂質土であるため未耕作地には土壌保全と飼料需給をかねてアルファルファ等の牧草がつくられる。
AR30	農耕馬の選定		入植初期には原動機付農機具の購入は携行資金等の関係から負担が重いので、動力源は主として馬にたよることになる。

写真番号	タイトル	画像	説明文
AR31	灌漑水		アンデス山脈の最高峰アコンカグアを中心として3,000m台の山脈が南北に平行してはしている。この地域の夏は乾燥するが、冬を中心に長い雨期があるので、その氷雪の豊富な融水は、サンフアン、メンドサ、ツクマン、ディアマンテ地方に流れ、カリフォルニアに匹敵する一大灌漑農業地帯になっている。
AR32	サンカルロスのもも園		メンドサ州の雨量は極めて少なく年間182mmにすぎないが、雪融水にやしなわれるこの地域は各種の果物と牧草類の栽培による畜産で栄えている。
AR33	桃の乾果		雪融水によるオアシスの水は灌漑によって十分に生かされ、メンドサ州耕地の40%がブドウ園、約26%が牧草の作付け地となっている。とくにブドウ酒製造は全国第一位でこの他に桃、スモモ等他の各種の果物が栽培されている。
AR34	小学校		アルゼンチンの初等義務教育は7年間で、6～14才までの児童である。連邦政府直轄のもの、州政府管轄の学校は一切の費用を政府が負担する。アンデス移住地の学生は小学校に通学している。
AR35	ブドウ酒製造工場		メンドサ州のブドウ酒製造の大部分は個人企業で、それぞれボデガスと呼ばれる酒蔵をならべている。アルゼンチンで生産される醸造用ブドウ160万メトリック・トンのうち約50%がこのメンドサ州で生産される。
AR36	桐油搾油工場		ガルアペー移住地の主たる永年作物は油桐、オレンジ、マテ茶、植林、紅茶等である。油桐は主として農協ルートで搾油され販売される。その中でもサント・ピポーのPATの工場は最も大規模で現在1000名をこえる組合員をもっている。

写真番号	タイトル	画像	説明文
AR37	ガルアペー移住地		<p>ガルアペーはわずか100戸たらずの移住地であるが、診療所、試験農場、小学校等が当事業団によって設けられている。写真の中央右側白い建物が診療所。</p>
AR38	ユーカリ		<p>営農の中心的な永年作物の中で比較的新しいのが植林である。中でも成長の早いのがユーカリで2～3年で写真のように大きくなる。このユーカリは伐採期になると約60Km離れたピライにあるセルローサ・アルヘンティナ社に販売されパルプ原料となる。</p>
AR39	パラナ松		<p>パラナ松はこの地方の植林の中心である。用材としても非常によいが、植林されたものは一応パルプ用である。伐採期は15年とユーカリ7～8年に対して長い。</p>
AR40	アメリカ松		<p>アメリカ松のエリオツティ種は植林の目的で導入された新しい作物である。パラナ松は肥沃な土地しか育たないのに対し、エリオツティ松の方は土地を選ばない特徴がある。一般に植林は他の永年作物を植えた残地に行なわれることが多いので、この松を植える人が少なくない。</p>
AR41	牧場		<p>この近くの農家はパラナ河沿いの傾斜等に2～3ヘクタールの放牧地をもっている例が多い。1ロット30ヘクタールの土地利用の一つの形態である。日本人の入植者もこの形態をとり入れている人がいるが、乳牛を入れている例が多い。</p>
AR42	家族		<p>角田さんは千葉県出身でオレンジ一本でやっている。オレンジも大きくなって実がつくようになったが、小学生だった長男もそれにまけない程大きくなった。アルゼンチン生まれの次男もやがて小学生だ。</p>

写真番号	タイトル	画像	説明文
AR43	煙草		<p>ガルアペー移住地における換金作物の中心はタバコである。収穫したタバコは写真のような乾燥庫で乾燥する。入植当初には乾燥庫もベニヤ板の廢材が利用されたが現在では本格的なものである。</p>
AR44	製材		<p>この移住地の森林は原始林で木材の種類は豊富だ。日本にくらべると概して硬い材が多い。ラパッチョ、グワタンブー、セードロ等の有用材が多いので製材所もあちこちにある。</p>
AR45	住宅		<p>彼は入植七年目で家を建てなおした。生活のみとおしもついで本格的に腰をおちつけたと言うところで、ここまできればもう心配はない。</p>
AR46	土曜日		<p>土曜日には近所のアルゼンチン人と集って一杯飲むこともある。スペイン語は下手でも、手振り、身振りで気持は通じ合う。</p>
AR47	親と子		<p>移住地では楽しみが比較的少ないから小学校の運動会には全移住地をあげて参加する。現地の人々はこういう楽しみ方を知らないので珍しがる。拓けゆく移住地の中での運動会から新しい希望がわく。</p>